様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２１年　４月２７日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006 年度から 2009 年度まで
課題番号：18520388
研究課題名（和文）音声データによる統語論と音韻論のインターフェイス研究

研究課題名（英文）A study of the syntax-phonology interface with phonetic data

研究代表者　時崎　久夫（TOKIZAKI HISAO）
札幌大学・外国語学部・教授
研究者番号：20211394

研究分野：英語学・言語学
科研費の分科・細目：言語学・英語学　3003
キーワード：インターフェイス、統語論、音韻論

１．研究計画の概要
音声データを被験者などから収集し、分析することで、統語構造と音韻構造の写像関係についてのモデルを検証する。

２．研究の進捗状況
実証的研究として、昨年度に引き続き、被験者を集め、例文の発音を録音して、パソコンに音声ファイルとして記録した。成果を、2008 年４月、Experimental and Theoretical Advances in Prosody (Cornell University, April 11-13, 2008) で発表したが、その際のコメントに基づき、今年度は英語話者に対してデータを収集した。実験・データ収集および分析は、補助を依頼し、音声分析ソフトを使った。結果を表計算ソフトでまとめ、考察を加えた。これにより、日英語で逆の結果が得られ、新事実として理由の考察を開始した。英語では、逆接の接続関係の２文の間の境界が強いのに対し、日本語では、順接の接続関係の２文の間の境界が強いことがわかった。これは日英語で、枝分かれの方向が逆であることに起因するものと考えられる。この成果は、次年度の 2009 年 9 月、Discourse – Prosody Interface, Paris で発表したいと考える。
また、日本語と英語に限らず、さらに考察の範囲を他の言語にも広げた。韓国語についても考察し、韓国語の音節構造は一般に考えられているよりも簡単であることを、韓国音韻論学会で成果として発表した。世界の言語についてもデータベースを使った研究を進め、ミュンヘンでの子音連続に関する学会で語順との関連があることを発表した。これは次年度も継続していく予定である

３．現在までの達成度
②おおむね順調に進展している。
予定していた実験などはある程度の被験者数を確保し、モデルの検証も進んでいる。

４．今後の研究の推進方策
さらに多くの英語の被験者からデータを集め、日英比較を完成させる。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　２件）

Hisao Tokizaki. Symmetry and asymmetry in the syntax-phonology interface. 2008.『音韻研究』*Phonological Studies* 11, 123-130. 日本音韻論学会. 査読有.

Hisao Tokizaki. Intrasentential prosody: Conjunction, speech rate and sentence length. *Nouveaux cahiers de linguistique française* 28 (2007), 359-367. The University of Geneva. 査読無

〔学会発表〕（計　１件）

Hisao Tokizaki and Yasutomo Kuwana. 2008. Prosody of Positive/Negative Conjunctions in Japanese. Experimental and Theoretical Advances in Prosody. Cornell University, April 11-13

〔図書〕（計　１件）

Hisao Tokizaki. ひつじ書房 *Syntactic structure and silence: A minimalist theory of syntax-phonology interface*, 2008. 209 p.

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

○取得状況（計　　件）

〔その他〕